

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第46週 (11/11-11/17) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	46週	45週	44週	43週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	11/11-11/17	11/4-11/10	10/28-11/3	10/21-10/27	11/4-11/10
			46週	45週	44週	43週	45週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	1 0.06	1 0.06	3 0.17	30 0.22
	咽頭結膜熱		6 0.33	5 0.28	7 0.39	12 0.67	38 0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	46 2.56	39 2.17	28 1.56	32 1.78	331 2.45
	感染性胃腸炎		60 3.33	50 2.78	42 2.33	54 3.00	368 2.73
	水痘		9 0.50	2 0.11	11 0.61	1 0.06	33 0.24
	手足口病		29 1.61	23 1.28	29 1.61	23 1.28	277 2.05
	伝染性紅斑		5 0.28	5 0.28	9 0.50	8 0.44	38 0.28
	突発性発しん		5 0.28	10 0.56	6 0.33	7 0.39	55 0.41
	ヘルパンギーナ		3 0.17	1 0.06	10 0.56	10 0.56	23 0.17
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	13 0.10
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎	85 3.04	18 0.64	27 0.96	23 0.82	208 0.97
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	3 0.60	1 0.20	20 0.57
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	40歳代	細菌の分離・同定、 薬剤耐性の確認、 起因菌の判定	百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出
				風しん	男性	10歳未満	血清IgM抗体の検出

・第46週は、結核2件(142)、レジオネラ症1件(1カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(16)、百日咳2件(132)、風しん1件(46)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第46週のコメント

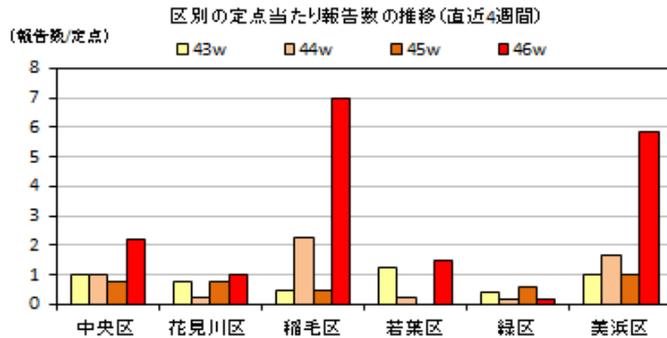
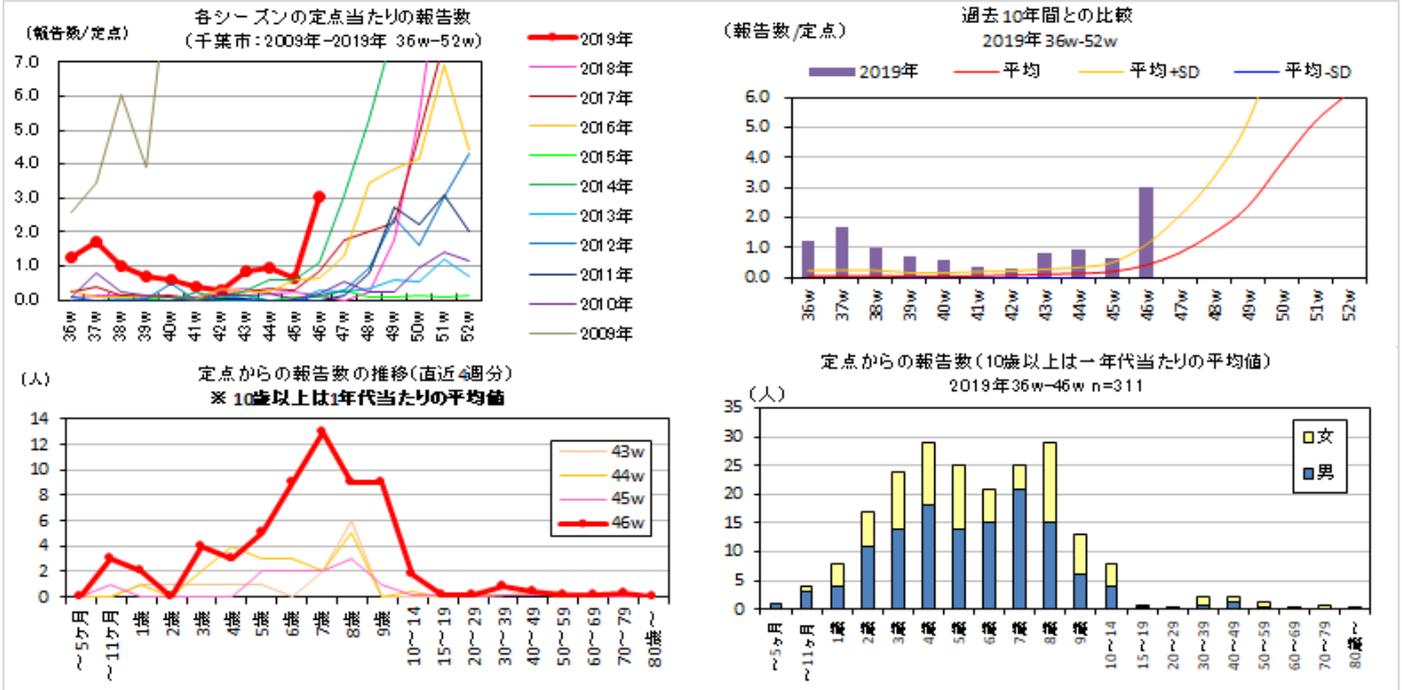
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>前週より増加し2.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<インフルエンザ>前週のおよそ5倍増加し3.04となった。過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多。

■ トピック ■

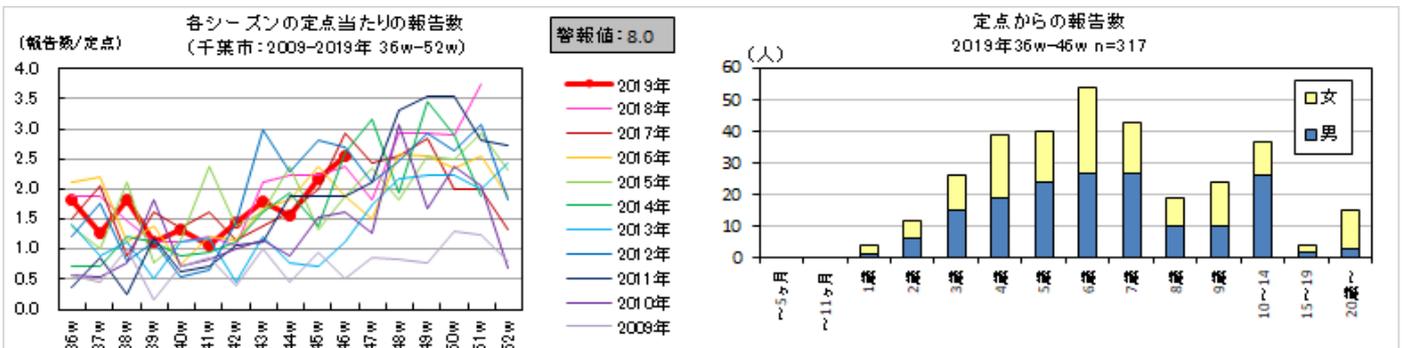
<インフルエンザ>

全国レベルの第45週の定点当たりの報告数は1.03となり、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多となっています。都道府県別では沖縄県、鹿児島県、青森県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.97で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第46週は前週よりおよそ5倍増加し3.04となり、流行開始の目安とされる1.00を再び上回りました。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(7.00/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第46週までの累積報告数は311件で、性別では男性が55.9%(174名)、女性が44.1%(137名)となっており、年齢階級別では4歳及び8歳(共に9.32%:29名)、5歳及び7歳(共に8.04%:25名)の順で多く、20歳未満が全体の76.8%、10歳未満が全体の63.0%となっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第45週の定点当たりの報告数は1.78となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では山形県、新潟県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.45で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第46週は前週より増加し2.56となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(5.50/定点)で最多で、同区の5歳及び6歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第46週までの累積報告数は317件で、性別では男性が53.6%(170名)、女性が46.4%(147名)となっており、年齢階級別では6歳(17.0%:54名)、7歳(13.6%:43名)、5歳(12.6%:40名)の順で多くなっています。



## <風しん>

全国レベルの第45週の発生届の累積報告数は2260件となり、昨年の同時期(2032件)よりも多くなっています。都道府県別では東京都、神奈川県、千葉県の間で多く報告されており、関東地方が多くなっています。千葉市では第37週以来発生届がありませんでしたが、第46週に1件の発生届があり累積数は46件となりました。性別では男性が76.1%(35名)、女性が23.9%(11名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に30.4%:14名)、20歳代(17.4%:8名)の間で多く、30歳代及び40歳代の男性が中心となっています。またワクチン接種歴では、無し及び不明が全体の8割近く(78.3%:36名)を占めています。

